

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 自然生命科学研究支援センター

	組織目標	達成状況(成果)
教 育	各部門 利用者研修会(2～6回) 教育訓練講習会(1～8回)法令によるものを含む 英語による新規教育訓練(1回) 理系学生のための教養講義(1回) 高校生を対象とした実験体験コース(1回)	別紙のとおり
	達成度:	4 ③ 2 1
研 究	各部門 研究成果論文の公表(1編以上/各部門) 学会発表(1回以上/教員/各部門) 外部研究資金獲得のための応募(1件以上/各部門) 学内外の共同研究の構築	別紙のとおり
	達成度:	4 ③ 2 1
セ ン タ ー 業 務	各部門 各部門の日常業務を完全に実施する (動物実験支援、マウス胚凍結、共通機器の利用促進、受託分析、放射線安全管理、作業環境測定の実施、施設の維持管理、など) 各部門の広報誌や利用の手引きを発行する	別紙のとおり
	達成度:	④ 3 2 1
社 会 貢 献	分析計測・極低温部門 学外受託分析サービス(元素分析外)を行う。 ゲノム・プロテオーム解析部門 高校生を対象とした、組み換えDNA実験指導を実施する。	別紙のとおり
	達成度:	④ 3 2 1
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。 教育・研究に関しては、各部門とも当初の目標を達成したが、共同研究の開拓にあと1歩の工夫が必要である。センター業務に関しては、各部門とも格段の努力を傾注した。特に、別紙では言及していないが光・放射線部門は津島地区の教員病欠に伴う目覚ましい支援活動を行なった。また、鹿田地区における産学官連携センター(OMIC事業)に、動物資源部門と共に大きな貢献を果たしつつある。両部門は津島地区における管理体制の構築にも大きな努力を払った。分析計測・極低温部門とゲノム・プロテオーム部門は学外にも開かれた共同利用、受託解析サービスを継続または新規事業として行ないつつあり、高校生への公開授業等共に、社会貢献を果たした。次年度はこれらの事業をより積極的に推進する必要がある。		

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究利用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

別紙

区分	組織目標	光・放射線情報解析部門	動物資源部門	ゲノム・プロテオーム部門	分析計測・極低温部門
教育	(各部門) 利用者研修会(2～6回)		10回(鹿田8、津島北2)		機器利用者研修会8回、液体窒素・液体ヘリウム利用者研修会(法定保安教育)年1回+希望者がある都度開催、NMR資格試験(10月下旬実施)
	教育訓練講習会(1～8回)法令によるものを含む	新規8回・再教育3回	9回	放射線業務従事者教育訓練:新規1回・再教育3回	
	英語による新規教育訓練(1回)	1回	5件(実験動物技術者)		
	理系学生のための教養講座(1回)		動物実験技術者向けの技術講習・実習:1回(2日)	教養講義:前期15回、専門講義:前期4回	講義での機器見学:2回
	高校生を対象とした実験体験コース(1回)		生物学実習(医学部医学科カリキュラム)の実施	実験体験コース:1回	複数回実施(極低温分野)、機器見学会:1回
研究	(各部門) 研究成果論文の公表(1編以上/各部門)	3編(鹿田施設)	2編	1編以上を達成している	7編
	学会発表(1回以上/教員/各部門)	5回(鹿田施設)	2回	1回以上を達成している	44回
	外部研究資金獲得のための応募(1件以上/各部門)	2件(鹿田施設)	1件(新規採択1件)	1件以上を達成している	13件
	学内外の共同研究の構築		5件	目標を達成している	20件
					技術研究会発表:1回
センター業務	(各部門) 各部門の日常業務を完全に実施する (動物実験支援、マウス胚凍結、共通機器の利用促進、受託分析、放射線安全管理、作業環境測定の実施、施設の維持管理、など)	放射線安全管理、被ばく管理及び作業環境測定の実施と、その全学支援を従来通り実施した。施設の維持管理も従来通り実施した。	マウス胚凍結数(マウスのSPF化):14件、施設建屋維持修理実施:7件、室の共同利用促進のための修理:6室	RI管理区域の管理、機器の管理、受託分析、作業環境測定の実施、施設の維持管理等)は完全に実施した。	液体ヘリウム容器、液体窒素容器の貸出体制の整備、QTOF・シーケンサー・生体X線解析装置の共同利用開始、ユーザー利用料金計算業務の請負を開始、元素分析866検体(前年比49.3%アップ)、NMR窒素充填作業請負
	各部門の広報誌や利用の手引きを発行する	鹿田施設ニュースを発行した	部門(鹿田施設)年報の発行、鹿田施設ニュースの発行:3回	部門のパンフレット及び受託解析のちらしを作成し、あらゆる機会に配布した。	広報誌発行、パンフレット発行、極低温分野利用の手引き配布
	(センター全体) 支援センターコロキウムの実施(1回/年)	支援センターコロキウムを開催した			全国機器分析センター会議、副会長を務める
	センターのHPの充実をする		動物実験委員会HPの整備、動物資源部門HPの整備(津島北施設HP開設を含む)	センターのHPを大幅改訂し、利用促進等に貢献した。	
	センター全体の運営体制の見直しの検討			センター全体の運営体制の見直しの検討を行った。	
機器の共同利用体制整備の検討		共通機器としてX線照査装置の更新、小動物様X線CT装置の導入準備を行う。 マウスの収容能力の増強を行った。		機器の共同利用体制整備の検討を行い、来年度早々にリスト作成を行う予定になっている。	
社会貢献	(分析計測・極低温部門) 学外受託サービス(元素分析外)を行う	岡山県中学校教育研究会理科部会浅口支部で研修会を行った。	動物実験技術者向けの技術講習を開催、実施した。	プロテオーム解析の受託サービスを立ち上げ、相当数の依頼を受けた。	学外受託分析サービスの実施:理大9検体・企業2検体、大学間連携研究設備ネットワークに参加、共同研究を介した学外利用者があった。学外者による見学会:2回
	(ゲノム・プロテオーム解析部門) 高校生を対象とした、組み換えDNA実験指導を実施する			実施した	高校等の希望に応じ、寒剤供給を行った(極低温分野)